

はじめに

斑鳩町教育委員会では、平成17年5月に「斑鳩町子ども読書活動推進計画2005」を策定し、子どもたちの読書環境の整備を進めてきました。その成果としては、高校、小・中学校、幼稚園・保育園と町内6読書グループおよび個人ボランティアならびに斑鳩町の関係部署との連携・協力が予測以上に進んだことです。

とくに6読書グループの支援による「学校おはなし訪問」や、小・中学校の司書教諭との協議の中から生まれた、図書館から小・中学校、幼・保育園への図書大量貸出は非常な好評を得ております。

そこから生まれた総合力は、斑鳩町の子どもたちの読書推進の基となり、歴史に支えられた、このいにしへの趣を残す町の有様や人々の生き様を子どもたちが学びとり、ついで大きな可能性を持った広い世界へ飛び立っていくことの大きな支えになるものと信じます。

一方、斑鳩町は世界遺産に代表される寺社や文化財、古墳や身近な文化遺産など、豊かな歴史と文化資産に恵まれております。新しいまちづくりを目指して、これまで昭和51年に第1次、62年に第2次まちづくり総合計画を、「歴史と文化がくらしの中に息づく“新斑鳩の里”」を基調テーマに作成してきました。これを継承しながら第3次計画を平成13年に、続いて第4次計画の策定を昨年からはじめております。

その中の重点施策・「歴史・文化の拠点づくりと活用」に、斑鳩町における子ども読書推進についての基本的な考え方や取り組み方を示していくものとしませう。

初めて推進計画を策定して、はや5年が経過いたしました。計画の中に実施目標を5カ年としてきました。その具体的な成果と、計画推進の中で出てまいりました課題の取りまとめが出来あがりましてご報告いたします。

最後になりましたが、本報告書作成にあたりましてご協力いただきました多数の方々へ心より厚くお礼申し上げます。

平成23年3月31日

斑鳩町教育委員会

教育長 栗本裕美

もくじ

本報告書作成の趣旨	-----1
『斑鳩町子ども読書活動推進計画』の基本テーマ	-----1
推進計画 2010 の目標年次と対象年齢	----- 2
推進計画 2010 の主な施策	----- 3
7年のあゆみ	----- 5
新たな課題	----- 9
報告書作成に協力していただいた方々	-----10
附属資料	-----11

協議経過

- 平成 20 年 7 月 24 日 第 25 回図書館協議会
推進計画 2005 改訂を提案
- 平成 20 年 9 月 22 日 小・中・高校との連絡会
- 平成 20 年 10 月 10 日 地域読書グループとの連絡会
- 平成 20 年 10 月 23 日 幼稚園、保育園との連絡会
- 平成 21 年 2 月 26 日 2 中学校司書教諭との会議
- 平成 21 年 3 月 12 日 地域読書グループとの連絡会
- 平成 21 年 3 月 25 日 第 26 回図書館協議会
- 平成 21 年 7 月 16 日 第 27 回図書館協議会
- 平成 22 年 2 月 8 日 小・中・高校との連絡会
- 平成 22 年 2 月 18 日 幼稚園、保育園との連絡会
- 平成 22 年 2 月 25 日 第 28 回図書館協議会
- 平成 22 年 3 月 11 日 地域読書グループとの連絡会議
- 平成 22 年 9 月 30 日 第 29 回図書館協議会
- 平成 22 年 12 月 9 日 幼稚園、保育園との連絡会議
- 平成 22 年 12 月 16 日 地域グループとの連絡会議
- 平成 22 年 12 月 20 日 小・中・高校との連絡会議
- 平成 23 年 2 月 17 日 地域読書グループとの連絡会議
- 平成 23 年 3 月 28 日 小・中・高校、幼稚園、保育園との連絡会議
- 平成 23 年 3 月 17 日 第 30 回図書館協議会

『斑鳩町子ども読書活動推進計画 2010』

—推進計画 2005 の成果と課題・報告書—

■ 本報告書作成の趣旨

平成 17 年 5 月に『斑鳩町子ども読書活動推進計画 2005』を策定して 5 年が経過いたしました。その中に計画の実施目標を 5 カ年としております。

この間に地域、学校と関係機関、図書館が一体となって取り組んできました活動の具体的な内容とその成果、また、計画推進にあたって協力していただいた、数多くの方々との意見交換の場から生まれましたご指摘を新たな課題と受け止め、改めて「推進計画 2005 の成果と課題」としてまとめました。

■ 『斑鳩町子ども読書活動推進計画』の基本テーマ

『読書は心と心、人と人をつなぐもの』

昨今、急速に進む少子高齢化の影響もあってか、人間関係の希薄性がとりざたされています。そして、その影響が子どもたちにも及んでいるとも言われています。

「最近の学齢前の子どもたちに笑顔が少ない」と首をかしげている保育士にお会いしたことがあります。子どもたちの世界にあっては、いじめのほか、家庭での会話機会の減少、友だちとの調和の欠落などの理由で、子ども同士、親と子の意思疎通が欠けつつあるのでしょうか。

しかし、子どもたちは人と人との暖かいつながりを求めて、戸惑いながら懸命に努力しているのも事実です。子どもたちの笑顔が常に見られるような状況を、家庭、地域、学校、図書館が一体となり創りだす必要があります。

斑鳩町立図書館ではそのひとつの試みとして、平成 19 年度から従前の絵本の「読みきかせ」のあり方を変えてみました。

これまでの「読みきかせ」では、複数の子どもたちを対象にして、一人の読み手が絵本を読み聞かせるという形で行なっていたのですが、ここに、絵本あれこれ研究家・加藤啓子氏の指導で「読みあい」の方法を採り入れて実施しました。

これは、小さな子どもと年齢の高い子ども、大人と子どもが一対一で絵本を「読みあう」という方法です。

図書館ではこの「読みあい」を学校、保育園の現場に導入し、図書館行事「えほんのひろば」でも定着化を図ろうとしてきました。

そこで小・中学校教諭、保育士、ボランティア、図書館員、中学・高校生、それに子どもたちが絵本を通じて心を通い合わせて、小さな感動がいくつも生まれつつあります。



町立図書館 えほんのひろば



あわ保育園 えほんのひろば

■ 推進計画 2010 の目標年次と対象年齢

2010 推進計画の期間は、平成 23 年度から平成 27 年度の 5 年間とします。また、推進計画にともなう各実施プログラムを作成する場合、子どもの発達段階を明確にする必要があることから、計画実施対象年齢を 0 歳から 15 歳までとします。

2010 計画は、2005 年版の基本方針を継承するとともに、「推進計画 2010 の主なる施策」に沿いながら進めます。また、内容の検討や調整が生じた場合は、図書館協議会を軸に、地域グループ、校・園との連絡会および関係部署との協議の中で行なっていきます。

■ 推進計画 2010 の主な施策

I 家庭、地域、小・中学校、幼稚園、保育園、町立図書館を通じて、子どもたちに読書に親しむ機会をもたせること

【家庭、地域における読書の推進】

幼児期には、耳から入る言葉の体験が言語能力を伸ばし、読書の基礎をつくっていきます。絵本を手にお父さんお母さんが、それを読んであげるとは非常に大切なことです。絵本の世界を十分楽しんだ子どもはつぎの読書の段階へと進んでいきます。この時期には読書を無理に勉強と結びつけず、親自身も本を楽しみ、それを子どもに伝えていくようにしたいものです。

子どもの読書に関わるボランティアグループは、お互いに連絡・協調し、図書館、学校、地域の集会施設などを利用しながら、活動の範囲を積極的に広げていく必要があります。

【学校における読書の推進】

学校では、児童・生徒がくつろいで読書ができるよう、図書室の中での読書環境づくりを行ないます。書架案内に工夫をこらし、推薦図書コーナー、図書展示コーナーを設けるなど図書室が有効に活用されるよう努力を行なっています。

司書教諭や他の職員、ボランティア等が連携・協力して、図書室の計画的利用や読書指導推進に努めます。中学校では図書室の「常時開室」を目指していきます。

その他、司書教諭や他の職員が協力して読書指導を進めます。児童・生徒に本を読む楽しみを知ってもらうために、「朝の読書」や国語の教科の時間に教師が、児童・生徒に読み聞かせや朗読を行なうなど、学年・学級単位での読書指導の取り組みに工夫を持たせていきます。

【町立図書館・公民館図書室での取り組み】

町立図書館、公民館図書室では、子どもたちがいつでも読書を楽しむことができる空間と、読みたい本を自由に手にする環境づくりに努めます。

児童担当者は、児童書についての幅広い知識と、子どもの発達段階に応じた本を選択し、読書指導の技術を会得するために、常に自己研修に努めるとともに組織的な研修を受ける必要があります。

また、ブックスタート、おはなし会、ストーリーテリング、人形劇や図書展示など諸行事を行ない、子どもたちが本と出会える機会を数多く提供するとともに、おすすめの本のリスト、成長段階別の絵本リストなどのブックリストを作成し、関係者が子どもの本を選ぶ場合の支援をします。

Ⅱ 学校図書館、町立図書館・公民館図書室における読書環境、資料の充実・整備に取り組むこと

【学校図書館資料の充実】

学校図書館では、子どもたちの興味や関心に応え、各カリキュラムを支援するため計画的な蔵書の充実が重要です。とくに調べ学習での利用が大きな柱となるため、図書資料の新鮮度が求められます。そのための図書購入費を継続して確保するよう努めていきます。

また、古い図書資料を適切に除籍し、情報の正確さ・新鮮度を保つ必要があります。そのことは自然科学や人文社会科学分野の諸事象を子どもたちに正確に伝えることにもなります。

そして急速に進化する情報化時代にあつて、子どもたちが内・外部の諸データを自由に検索でき、学習に役立つ情報を得られ、また、図書館の資料管理が円滑に行なわれるよう、情報化の整備を目指します。

【町立図書館・公民館図書室での取り組み】

子どもたちにとって魅力のある絵本、よみものの充実に努め、利用の多い基本的な児童書については複本を購入します。調べ学習用図書については、内容、レイアウト等を多角的に検討のうえ購入します。

また、学校図書館、幼稚園、保育園の読書活動を拡大するため、団体貸出用図書を準備するとともに、その配送を町立図書館が行います。

Ⅲ この計画実施にあたって地域、学校、幼稚園、保育園、町立図書館が十分連携・協力すること

【子ども読書推進についての連絡会の開催】

町立図書館では「推進計画 2005」策定を機に 2 中学校、3 小学校と連絡会を開催し、資料の選定・収集、保管・管理などの研究協議をしてきました。また、地域読書グループとの定例会を開き、子どもの読書についての情報交換をしております。

今後も地域グループ、学校・幼稚園・保育園、町立図書館の三者で定期的に連絡会を開催し、調べ学習の課題や出版流通事情等、子どもの読書についての諸情報を共有し、斑鳩町の子どもたちのための読書推進についての協議を行ないます。また、町立図書館は、図書資料の整理方法、収集・保存等のノウハウを学校図書館へ提供します。

これまで行なってきた小学校 3 年全クラスへの「おはなし訪問」を他の学年、幼稚園、保育園にも広げていきます。この行事には地域グループを中心とした支援ボランティアの協力が不可欠です。また、ボランティアの輪を大きくする必要にも迫られています。

このボランティアの方々育成のための講座を開催し、人材育成に努めていきます。地域、家庭に対する子ども読書活動広報は、斑鳩町広報「いかるが」、図書館だより「樗」などでその啓発につとめます。

◆ 7年のあゆみ -----

『斑鳩町子ども読書活動推進計画 2005』の策定を始めた平成 15 年 12 月から、地域、学校、図書館等の協力体制で取り組んできました推進事業を、トピック的に時系列で記し、ついでその具体的な内容を別に紹介します。なお、説明項目と関連のある附属資料についてはその旨明記しています。併せてお読みください。

◇ 平成 15 年

- ① 4 月 1 日、当町でブックスタート事業始まる（住民生活部・健康推進課所管）
- ② 12 月 22 日、『斑鳩町子ども読書活動推進計画 2005』策定の提案を、第 13 回図書館協議会（中西幸雄委員長）へ行なう。席上、実施要綱づくりの指摘があった。

◇ 平成 16 年

- ① 1 月、「協議の場として、2 中学校、3 小学校の司書教諭、地域 7 読書グループとの定例会を設ける」などを含む推進計画実施要綱を作成。（事務局）
- ② 2 月 16 日、第 1 回目の協議を地域 7 グループとの間で行なった。その後、17 年 4 月 22 日の最終案の協議まで、学校（2 中学校、3 小学校）との協議 3 回、地域 7 グループとの協議 3 回、地域、学校と図書館との合同協議 2 回、図書館協議会 4 回の会議を開催した。

◇ 平成 17 年

- ① 子ども読書活動に関わるボランティア全員（67 名）を「ボランティア活動保険」に加入。
- ② 17 年 5 月 1 日、『斑鳩町子ども読書活動推進計画 2005』刊行。

◇ 平成 18 年

- ① 4 月 12 日、小・中学校、幼稚園、保育園への大量貸出を始める。図書の集配については、町シルバー人材センターへ業務委託する。
- ② 4 月 23 日、「子ども読書活動」に対して当館が文部科学大臣表彰を受ける。

◇ 平成 19 年

- ① 4 月 1 日、ブックスタート事業を開始。これまで住民生活部健康推進課所管事

業であったが、地域医療制度の変更で当該課での実施が困難となったので、図書館が継承実施することになった。

② 8月、「地域ふれあい活動体験事業」（奈良県の補助金事業）を行なった。この活動は中学生が主人公となり、地域の多くの層の人たちと交流し、地域の特色を活かしながら、様々な学習活動を行なうとするもので、図書館としては、斑鳩南中学校で「おはなしの出前はじめます!」、斑鳩中学校では、学校図書館の図書の除籍に始まり、図書の魅力あるアレンジメント、サインの新調などの作業を中学生、教頭と一体になって行なった。

◇ 平成 20 年

3 小学校、2 中学校に図書館コンピュータが導入され、図書資料データのデジタル化作業を始めた。

◇ 平成 21 年

6 月、中学生に対する読書調査を行なった。あらかじめ、2 中学校司書教諭と調査内容について協議をし、調査対象は 2 中学校の 2 年生全員 246 人、調査方法はアンケート方式により「朝の読書時間」に行なうことが決まった。

実施した諸事業・行事のあらまし

◆ 「読みきかせ」から「読みあい」へ

子どもたちに絵本を読みきかせる方法は幾とおりもあるが、当館が平成 19 年 8 月に「地域ふれあい活動体験事業」を実施するにあたり、絵本あれこれ研究家・加藤啓子氏から新しい実践指導を受けた。

それは、子どもたちが簡単に絵本を手にとって選べる面展台（絵本の平置き台・手づくり）を会場に複数台配置し、小さい子どもと大きな子ども、子どもと大人、あるいは大人と大人が一对一で絵本を「読みあう」というもの。図書館ではボランティアの協力を得ながら、校・園の現場や図書館行事「えほんのひろば」で定着化を図ろうとしている。



あわ保育園えほんのひろば



図書館 えほんのひろば

◆ ボランティアと図書館の協調

子ども読書推進活動にかかわるボランティアは現在6地域読書グループを中心に約90名。この方々は、それぞれの地域で独自の活動を実践するとともに、町立図書館児童サービス支援を積極的に行なっている。具体的には、「ブックスタート」「ブックスタート・フォローアップ講座」「学校おはなし訪問」「えほんのひろば」等がある。

◆ 小・中学校、幼稚園・保育園に対する大量貸出の実施

推進計画2005の実施目標の主なもののひとつに、校・園に対する図書館資料の大量貸出がある。貸出図書の内容、図書の集配、貸出期間などの問題を校・園連絡会で協議を行ない、平成18年度から実施している。

各校・園間を1カ月の間隔で巡回し、1回の貸出冊数は60～80冊、集配業務は斑鳩町シルバー人材センターへ業務委託している。その利用は大量貸出実施前の17年度2,886冊から21年度5,339冊とほぼ倍増している。【附属資料2、3参照】

◆ 地域、校・園、町立図書館三者定例会の発足

推進計画2005策定を機に、地域6読書グループ、小・中学校、幼稚園・保育園、図書館の三者連絡会を定例化した。総合学習にともなう学校と図書館の情報交換、児童、生徒の職場体験や図書館見学等の事前打ち合わせ、学齢前の子どもたちへの絵本の選択など、その協議内容は多様化している。

◆ 小・中学校での「朝の読書活動」

小・中学校における「朝の読書活動」は、推進計画2005策定時に小・中5校中、4校で実施されていたが、2010年には5校すべてで行なわれている。

◆ ブックスタート、ブックスタート・フォローアップ講座の開催

ブックスタートとは、1992年英国・バーミンガムで起こった読書運動で、数年後日本に伝わり、全国に広まっていった。その趣旨は「絵本を開くことで、だれもが楽しく、赤ちゃんやゆっくり心ふれあうひとときをもてるように」地域のすべての赤ちゃんや保護者に絵本を手渡すという運動である。

斑鳩町では平成15年度から保健センターでこの事業を始め、順調に推移していたが、地域医療制度の改正で同センターでの実施が困難となり、平成19年9月から、図書館で継続実施することとなった。

斑鳩町で毎年誕生する赤ちゃんは約200人。ブックスタートの意義をお母さん方に十分理解していただくために、フォローアップ講座を開催している。

◆ 学校おはなし訪問（おはなしの出前）

平成 12 年 7 月から実施している。小学生の図書館見学の答礼の意味で図書館が始めたものである。当初は司書職員のみで行なっていたが、ボランティアの協力と学校側の要望で継続している。小学校 3 年生全クラスに対し、毎年 6 月中旬に実施しているが、子どもたちに好評を博している。毎回決まって、子どもたちから丁寧な礼状が届く。内容は絵本の読みきかせとストーリーテリングで、小学校のカリキュラムの時間内で行なっている。



東小学校おはなし訪問



ブックスタート

◆ 「絵本講座」の開催

絵本作り、絵本の編集にはじまり、絵本論、紙芝居の演じ方、おはなし会の開き方、語り手の養成、人形劇講座、絵本の歴史の解説等々、絵本に関係する諸事情を専門家に語ってもらう企画。平成 11 年から 1 年 1 回の開催で 14 回継続している。

参加者はボランティアや一般の方が多いが学生の参加もあった。

【附属資料 4 参照】

◆ 中学生読書調査

平成 21 年 6 月に実施。調査対象は斑鳩中学校、斑鳩南中学校 2 年生全員（男子・117 人、女子・129 人、計 246 人）でアンケート方式。両校とも「朝の読書活動」時間に行なった。実施にあたっては、両校の司書教諭と数回にわたり、内容の協議を重ねた。

調査結果は、数字のベースは異なるが全国の中学生に比べて斑鳩町の中学生の読書量は全国平均を上回っているということになった。

全国学校図書館協議会と毎日新聞社の共同で行なった「第 56 回読書調査」（2010 年 12 月）によると、全国の中学生の 1 カ月の平均読書冊数は、3.9 冊に対し、斑鳩町の中学生（2 年生）は、4.9 冊の本を読んでいるとの結果がでた。

【附属資料 5 参照】

「推進計画 2005」実施の中から出た新たな課題

「子ども読書活動推進計画 2005」の策定・実行から今日まで約7年が経過いたしました。この間、当館の児童サービス展開に大きな変化が生じております。

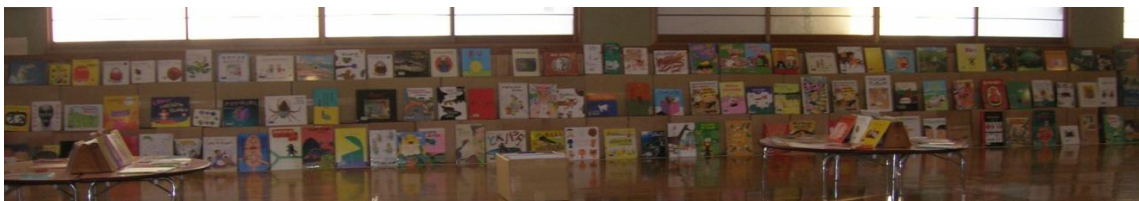
具体的な内容は「推進計画 2010」の中で述べていますが、一言で言いますと、地域読書ボランティアと司書教諭をはじめ小・中学校、幼・保園の関係者の多大な協力がいただけたということです。

その方々と諸行事を通じ、また親しく協議や連絡を行なう中で、当町の子どもたちに対する読書活動についての諸課題が新たに生じてきたのも事実です。

その諸課題は解決に時間を要するものや、早急に取りかからねばならないものもあります。それを「推進計画 2010」の中で着実に実行していきます。

課題の検討は、図書館協議会を中心とした諸会議を待って行なっていきますので、この報告書では列記することにとどめます。

- 学校司書の配置
- 学校図書館を通じた個人貸出、特に中学生
- 学校図書室の利用時間の拡大
- 読書活動対象年齢の設定
- 「読みきかせ」から「読みあい」へ
- ブックリストの作成—特に幼稚園、保育園から
- 町立図書館内に中学生用のコーナーを設けてほしい
- 図書館の利用時間の延長—中・高生から
- 個人ボランティアの募集
- ボランティアが使える専用の部屋、スペースの確保
- 3 公民館への巡回車の増便
- 関係機関および 役場各部署との連携強化
- 子どもの生活時間調査



西小学校 えほんのくに

■ 報告書作成に協力いただいた方々

1. 斑鳩町立図書館協議会

中西幸雄 大山俊雄 石川寿子 中永美津子 小林妙子 古川美智子
前田泰子

1. 地域読書グループ

おはなしさんぽ（植田京子） 人形劇ゴロゴロ（伊藤幸子）
ひこはな絵本の会（山本和子） 斑鳩おはなしの会（古川美智子）
読書研究会（玄古博子） おはなしのとびら（海保八恵子）

（カッコ内は代表者）

1. 中学校

塚育子（斑鳩中学校） 前田泰子（斑鳩南中学校）

1. 小学校

土田宏美（斑鳩小学校） 渡邊千賀子（斑鳩西小学校）
賀須井節子（斑鳩東小学校）

1. 幼稚園・保育園

梶田紘行（斑鳩幼稚園） 吉田真弓（斑鳩東幼稚園）
吉田由香（斑鳩西幼稚園）
青山裕美（あわ保育園） 家郷有加里（たつた保育園）
鈴木優子（法隆寺幼稚園）

1. 住民生活部・健康対策課

（敬省略）

1. 事務局

（教育委員会事務局）

栗本裕美 黒崎益範 東浦寿也 曾谷博一

（町立図書館）

田中康顕、吉松赤穂

■ 附属資料

グラフ・数表で見る5年間の成果

附属資料 1

子どもの読書推進活動 ネットワーク図

附属資料 2

町立図書館から小・中学校、幼稚園、保育園への絵本・図書等の貸出冊数の推移

附属資料 3

町立図書館から小・中学校、幼稚園、保育園への絵本・図書等の集配のスケジュール

附属資料 4

「絵本講座」開催の記録

附属資料 5

中学生への読書調査—斑鳩中学校、斑鳩南中学校の2年生全員（男子・117人 女子・129人）のアンケート集計結果

附属資料 6

アンケート集計結果①・小、中学校

- ・学校での読書環境の変化 ・図書室の開室曜日
- ・図書室担当者 ・蔵書冊数 ・図書費
- ・貸出冊数 ・「図書室だより」の発行
- ・ボランティアの支援 ・コンピュータの活用
- ・個人予約の配本 ・課題

アンケート集計結果②・幼稚園、保育園

- ・5年間の主な活動 ・図書館からの配本について
- ・図書費 ・今後の課題

アンケート集計結果③・6地域グループ

- ・代表者 ・構成員 ・活動頻度 ・活動拠点
- ・活動内容 ・町立図書館への協力
- ・町立図書館に望むこと



附 属 资 料

『斑鳩町子ども読書活動推進計画 2010』

—推進計画 2005 の成果と課題・報告書—

平成 23 年 3 月 31 日

編集・発行 斑鳩町教育委員会

〒 636-0198 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺西 3-7-12